



令和2年8月4日

担当課	観光課
担当者	原田
電話	(073) 435-1234
内線	内線3077

和歌山県と同時提供
御坊記者クラブと同時提供

【オール和歌山ロケ】 和歌山を舞台に若い男女の切ない逃避行を描く

映画 Soirée ソワレ

令和2年8月28日(金) 全国公開決定!!

映画概要

昨年7月5日から7月25日にかけての約3週間、本県和歌山市及び日高地方の各市町を舞台とし撮影が行われた映画『ソワレ』が、いよいよ**8月28日(金)**に全国公開します。

この映画は、俳優の豊原功補さん、小泉今日子さん、監督の外山文治さん3名で立ち上げた映画製作会社「新世界合同会社」による和歌山を舞台に描いたオリジナル脚本のプロデュース作品。

主人公・翔太を演じる実力派俳優・村上虹郎さん(23)【むらかみにじろう】と、100人以上のオーディションから大抜擢され、インディーズ映画で最注目新星・芋生悠さん(22)【いもうはるか】の2人をW主演に迎え、若い男女の切ない逃避行を映し出した映画です。

【ストーリー】

「俳優を目指して上京するも結果が出ず、今ではオレオレ詐欺に加担して食い扶持を稼いでいる翔太。ある夏の日、故郷・和歌山の海辺にある高齢者施設で演劇を教えることになった翔太は、そこで働くタカラと出会う。数日後、祭りに誘うためにタカラの家を訪れた翔太は、刑務所帰りの父親から激しい暴行を受けるタカラを目撃する。咄嗟に止めに入る翔太。それを庇うタカラの手が血に染まる。逃げ場のない現実に絶望し佇むタカラを見つめる翔太は、やがてその手を取って夏のざわめきの中に駆け出していく。

こうして、二人の「かけおち」とも呼べる逃避行の旅が始まった――。」

【撮影協力】

映画の撮影については、和歌山県及び(公社)和歌山県観光連盟(=わかやまフィルム・コミッション事務局)と和歌山市・御坊日高映画プロジェクト実行委員会が全面的にバックアップし撮影が行われました。

※御坊日高映画プロジェクト実行委員会(=御坊市、美浜町、日高町、由良町、印南町、みなべ町、日高川町、各団体等)

【後援】

和歌山県、(公社)和歌山県観光連盟

【協賛】

御坊日高映画プロジェクト実行委員会(=御坊市、美浜町、日高町、由良町、印南町、みなべ町、日高川町等)等

【配給・宣伝】

東京テアトル(株) 住所: 東京都新宿区新宿1-1-8 御苑テアトルビル

TEL03-3355-1013 【映画営業部】 TEL03-3355-1008 【映画宣伝部】

出演者



〔村上虹郎〕

岩松翔太(いわまつしょうた)役／村上虹郎

オレオレ詐欺の片棒を担いで日銭を稼ぎ、役者になる夢に向かいつつも鳴かず飛ばずの毎日を送る若者、岩松翔太。ある夏の日、生まれ故郷の海辺の町の高齢者施設で山下タカラ（芋生悠）と出会う。

【（プロフィール）】

氏名：村上 虹郎（むらかみにじろう）俳優 東京都出身
生年月日：1997年3月17日生 23歳
所属：（株）ディケイド

2014年、河瀬直美監督の『2つ目の窓』でデビュー。映画初主演を果たす。16年の『ディストラクション・ベイーズ』（真利子哲也監督）でも鮮烈な印象を残し、翌年の綾野剛主演の『武曲 MUKOKU』（熊切和嘉監督）でその存在感を決定的なものとする。『ナミヤ雑貨店の奇蹟』（17/廣木隆一監督）や『ハナレイ・ベイ』（18/松永大司監督）でも唯一無二の個性を発揮。主演作『銃』（18/武正晴監督）では、原作である中村文則の純文学に拮抗する、噛みしめがいのある内面演技を披露。モノクローム映像にも映えるたたくまいで映画俳優としての風格を感じさせた。オダギリジョーの長編初監督作『ある船頭の話』（19）ではキーパーソンを演じるなど、その活躍は留まるところを知らない。待機作に『銃 2020』（武正晴監督）『燃えよ剣』（原田真人監督）、『佐々木、イン、マイイン』（内山拓也監督）がある。外山文治監督とは17年の短編『春なれや』で顔をあわせている。



〔芋生悠〕

山下タカラ役(やましたたから)役／芋生悠

高齢者施設で働く山下タカラは、ときおり何かを諦めたような表情をみせる。父親の想像を絶する暴力が原因で家族はバラバラになり、彼女に残ったものは未だに消えることない心の傷だった。

【（プロフィール）】

氏名：芋生 悠（いもう はるか）女優 熊本県出身
生年月日：1997年12月18日生 22歳
所属：（株）ステッカー

2014年、「ジュノン・ガールズ・コンテスト」にてファイナリストに選ばれる。翌年、女優業をスタート。16年、『バレンタインナイトメア』（今野恭成監督）で映画デビュー。『マタードガス・バタフライ』（16/広瀬有紀監督）で映画初主演を飾る。『東京喰種 トーキョーグール』（17/萩原健太郎監督）や『斉木楠雄のΨ難』（17/福田雄一監督）などでも印象的な役どころを好演。主な出演作に『恋するふたり』（19/稲葉雄介監督）、『左様なら』（19/石橋夕帆監督）、『37セカンズ』（20/HIKARI監督）などがある。公開待機作にヒロイン役を務めた『ハンド全力』（松居大悟監督）、柳楽優弥主演の『HOKUSAI』（橋本一監督）がある。豊原功補演出の「後家安とその妹」では舞台女優としての力量も発揮。大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」を始め、テレビドラマへの出演も多数。写真集に、初舞台「欲浅物語」の舞台裏を追いかけた「はじめての舞台」がある。

監督&脚本：外山 文治（そとやま ぶんじ）

1980年9月25日 39歳 福岡県出身

日本映画学校演出ゼミ卒業。老老介護の厳しい現実を見つめた短編『此の岸のこと』（10）がモナコ国際映画祭 2011 で短編部門・最優秀作品賞など5冠に輝くなど、海外の映画祭で絶賛される。シルバー世代の婚活を澁刺と描き、長編デビューを飾った『燦燦一さんさん』（13）は全国公開され、モントリオール世界映画祭 2014 にも出品された。2017年、製作・監督・脚本・宣伝・配給すべてを手がけた『映画監督外山文治 短編作品集』を発表。渋谷・ユーススペースの2週間レイトショー観客動員数歴代1位となる。

（代表作品）

映画「此の岸のこと」（2010 公開） 映画「燦燦一さんさん」（2013 公開）
「TSUTAYA」CM演出他、PV、コンサート演出等



〔外山文治〕

プロデューサー：豊原功補（とよはらこうすけ）

1965年 9月25日 54歳 東京都出身

82年、俳優デビュー。青山真治監督の『WiLd LiFe』(97)で映画初主演。『亡国のイージス』(05)『カメレオン』(08)『闇の子供たち』(08)『座頭市 THE LAST』(10)と阪本順治監督作品に連続出演。主演作『受験のシンデレラ』(08/和田秀樹監督)で、モナコ国際映画祭最優秀主演男優賞に輝く。『HiGH&LOW』シリーズなどでもおなじみ。舞台「シブヤから遠く離れて」(16)で村上虹郎と共演。2017年、舞台「芝居噺『名人長二』」で、企画・脚本・演出・主演を果たす。19年、小泉今日子とともに、新世界合同会社を設立。映画プロデュースは今作が初。

アソシエイトプロデューサー：小泉今日子（こいずみきょうこ）

1966年 2月4日 53歳 神奈川県出身

82年、歌手デビュー。日本歌謡史に不滅のヒット曲を数々残す。同じ82年には、テレビドラマで女優デビューも。翌年、崔洋一監督の『十階のモスキート』で映画初出演。和田誠監督の『快盗ルビイ』(88)、相米慎二監督の『風花』(01)、黒沢清監督の『トウキョウソナタ』(08)、前田司郎監督の『ふきげんな過去』(16)など、映画女優としても類い稀なる個性を発揮。舞台出演も多く、2016年の「日の本一の大悪党」以降は、演出・プロデュースも積極的に手がけている。

共同プロデューサー：前田和紀（まえだかずとし）

1964年 11月25日 55歳 和歌山県出身

ロビン西原作の名作漫画『ソウル・フラワー・トレイン』の映画化が長編映画の初プロデュース。国内外の映画祭に招待され、高評価を得る。以降定期的に映画をプロデュース。19年和歌山市文化奨励賞受賞。

（代表作品）

2016年『ちよき』（オール和歌山市ロケ作品）

2018年『三十路女はロマンチックな夢を見るか？』

2018年『ボクはボク、クジラはクジラで、泳いでいる。』（オール太地町、那智勝浦町ロケ作品）

【公開映画館（和歌山県内）】

イオンシネマ和歌山（和歌山市）・ジストシネマ和歌山（和歌山市）8月28日（金）～ 公開

ジストシネマ御坊（御坊市）8月28日（金）～ 公開

ジストシネマ田辺（田辺市）9月11日（金）～ 公開予定

ジストシネマ南紀（新宮市）9月25日（金）～ 公開予定



(1)



(7)



(2)



(8)



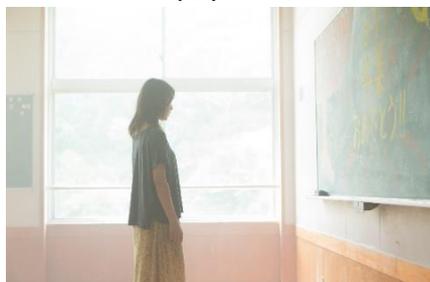
(3)



(9)



(4)



(10)



(5)



(11)



(12)



(6)

Soirée
ソワレ
(ロゴマーク)